

は、喀什噶爾に於ては銀六錢と算し、伊犁に於ては七錢五分と算して通用し、此外印度銀貨は葉爾羌地方に於てのみ通用し、其比價壹「ルビー」は銀四錢内外に當る。

紅錢

ホーチエン

新疆全體に普く流通するは銅貨にして制錢に比すれば、其形は同様なる

も、其質は迥に良好にして、純銅を以て製し、其量も亦少しく多きを異なりとす。故に紅錢四百文を以て銀壹兩の價格と定む、然れども各地多少の差異あり、例せば烏魯木齊にては四百文なるも、伊犁は三百七十文、塔爾巴塔臺は三百六十文を以て銀壹兩と算するが如し。

馬錢

マイチエン

黃銅錢にして其形制錢に同じく、一千文を以て銀壹兩と算す、但し馬錢は伊犁の外通用せず。

帖子

デエズ

油布製の代用貨幣にして、布政使又は道臺の發布する所のものなるも、發行地附近に限り通用せられ、普く流通せず、帖子は又信用ある大商店より發行するもの有るも、其流通區域は甚だ狭し。

天庚

テンガン

回部に於ける舊貨幣にして、小なる圓銀なるが、目下其數甚だ少なく、其殘存するも、單に人民間に私貨として通用するに過ぎず、然れども、回民の物價を定む